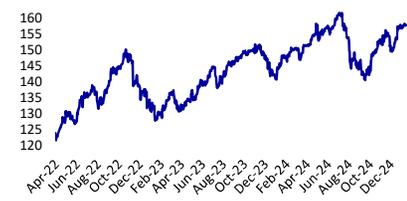


市場動向

■ USD/TWD



■ USD/JPY



■ JPY/TWD



■ EUR/USD



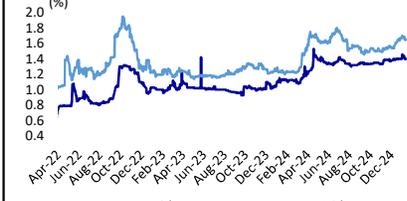
■ USD/CNH



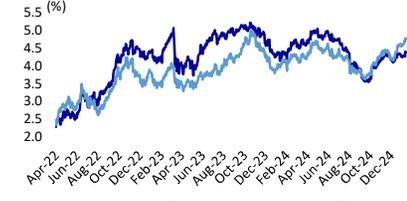
■ 台湾加権指数



■ 台湾国債利回り



■ 米国債利回り



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初1/6は32.920でオープン後、市場のリスク許容度は半導体関連株の上昇で増加したことに加え、人民元などのアジア通貨も直近の安値から反発したため、ドルは終始上値重い展開。1/7についても、人民元などのアジア通貨が反発したため、ドルは上値の重い展開が続いた。1/8は、株安によるリスク回避の台湾ドル売りに加え、米金利の上昇もドル買いをサポートし、ドルは再び32.80元台後半まで買われた。最終的には32.883でクローズ。1/9は、米金利の上昇に伴うドル買いが先行し、32.900でオープン。その後は輸出企業によるドル売りでドルの上値は抑えられたものの、株安によるリスク回避のドル買いが再び優勢となり、一時32.970まで上昇。1/10は、米雇用統計を控え、午前中は輸出企業によるドル売りを中心としたが、国際的な金利高に伴う送金フローが強まり、一時32.996まで買われた。最終的には前週比0.14%ドル高台湾ドル安の32.964で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は10.5億台湾ドル。

■ USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初1/6は156.95でオープン後、米次期トランプ政権が関税対象を絞るとの報道が入り、ドル/円は一時156円台前半まで急落。しかし、その後、トランプ氏は自身のSNSで当記事を否定し、ドルが再び買い戻された格好。1/8は、英国債をはじめとした債券利回りの急上昇で、円売りがやや加速し、一時158円台前半まで上昇。その後、Fed高官のハト派発言で、米金利の上昇が一服したため、158円台前半で推移。1/9は、英国債利回りの急上昇でリスク回避の円買いと米金利上昇に伴うドル買いに挟まれ、もみ合い相場となった。1/10は、米雇用統計が予想より強かったため、市場の予想利下げ回数は2回までに減り、米金利の上昇に伴うドル買いで一時158円台後半まで上昇。しかし、金利高が株売りの材料にもなり、リスク回避の円買いでドルは再び反落。最終的には前週比0.28%ドル高円安の157.74で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.800-33.100

今週のドル/台湾ドルは底値の堅い推移を見込む。米国における利下げ織り込みが剥落する中、グローバルにドル高が進行したが、旧正月を前に、輸出企業によるドル売りも見られるだろう。今週のドル/台湾ドルはやや上昇基調か。

■ USD/JPY 予想レンジ：157.00-159.50

今週のドル/円は上昇を見込む。トランプ次期米大統領の関税強化策がインフレを高めるとの懸念もあり、ドルの底堅さは維持される見通し。

今週の予定

1/13 (MON)	日本休場
1/14 (TUE)	米12月PPI
1/15 (WED)	米12月CPI
1/16 (THU)	米12月小売売上高、欧州ECB金融政策会議議事録、台湾半導体大手決算報告
1/17 (FRI)	米12月鉱工業生産、米12月住宅着工件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。